

(令和元年度)

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～12
② やおき工房・かしのき	13～18
③ ゆうあいホーム（白浜町・上富田町含む）	19～21
④ 訪問介護支援センター	22～23
⑤ 陽だまり	24～26
⑥ ハモニティー	27～30
⑦ 就業・生活支援センター	31～34
⑧ 地域活動支援センター	35～36
⑨ サンヒルズ（みなべ町含）	37～38
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道が丘・くまのこ作業所	39～41
⑪ こどうの家、第2こどうの家	42～44
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所、西出張所	45～48
(白浜町)	
⑬ かへむ	49～51
(みなべ町)	
⑭ すまいる	52～57
(すさみ町)	
⑮ いなづみ作業所	58～62

法人 事業報告

令和元年度（平成 31 年度）の事業計画・法人基本方針に沿って以下の点について取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

社会福祉法人として、利用者のエンパワメントを大事にしながら、虐待防止や差別解消法等を遵守するとともに、各事業の特性を生かした支援を総合的に行った。

- ① 地域から様々な相談を受け、市町と連携した委託相談、サービス等利用計画作成における相談支援等を通して、円滑な地域生活を送るために必要な支援を行うとともに、地域相談支援体制の向上に向け、行政と連携して取り組んだ。
- ② グループホームについては、ゆうあいホーム再編後の円滑な運営を確保し、合理的な運営をすすめた。サンヒルズの整備についてはクローバーの今後の活用について協議をすすめ、ハモニティの作業棟拡張に繋いだ。南紀の台物件については購入後の懸案となっていたが有効利用について協議をすすめ、新たな居住課題に対応するための新規ホーム建築に向け準備を整え国庫助成を得て、令和元年度事業として建築に着手した。
- ③ 一般就労については制度の水準達成を果たすとともに就労定着を重視した支援を行った。就労系事業所では B 型事業所の工賃アップを目標とした授産努力を連携で行いつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのレベルアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。
- ④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに、集団活動・交流を目的としたレクリエーションや旅行、地域のイベントなどの参加等、楽しめる機会を積極的に取り組んだ。
- ⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間での情報共有を諮り、密な連携を行うことで、事業所が相互に高まっていけるよう取り組んだ。
- ⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行うことで、利用者の希望を聞く機会を確保して支援を行った。
- ⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについては法人各事業所において意識的に実施するとともに、2 ヶ月に 1 回、苦情委員会を開催する等、個別の案件をくみ取りながら人権意識の向上に取り組んだ。なお、年 1 回、県が実施する「虐待防止研修」及び「伝達研修」は、新型コロナの感染予防対策の為、中止となった。
- ⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援を考えるとともに、必要に応じ、高齢資源との連携を図ってきた。その他、元年度に実施した「居住支援法人事業」において高齢者を含めた「住まい確保」の問題について、法人内を始め行政や地域資源と課題共有や協議の場を設けた。

2. 新たな財務運営

元年度はホームの建設費用を計上した為、単年度としてはマイナス決算となったが、それを除くと円滑な運営が確保された。「新社会福祉法人制度」のもとでの財務運営も定着し、「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、本年度も対象とはならない運営を行なうことができた。

- ① 毎月、法人全体の充実財産試算表を作成し、計画性を持った運営を行なった。
- ② 資産の有効活用については、利用者処遇や給与規程の改定などを通して質の向上に期するとともに、将来を見据えたバランスに配慮した活用をすすめた。
- ③ 建物及び設備への計画的な投資については、現在の利用者支援ニーズを踏まえて、ハモニティーの授産拡張や新たな居住にニーズに備えたホーム建設、安全確保の為の車輛購入等に投資を行った。
- ④ 職員の安定雇用を目的として本年度も定期昇給を実施した。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられるしくみづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、本年度も離職に伴う適時の採用に困難な側面があり、取り分け、旧市外の事業所において顕著だった。

「働き方改革」については有給休暇の取得等、法人各事業所において推奨しながら、国の基準にそった取得を促進した。

その他、在職中の人材育成の取り組みとして主任研修や法人研修部による各種の研修を実施した。

- ①ここ数年、人事規程に基づいてヒアリング会議を行ってきたが、質の向上を目的として今年度は個別毎に実施した。
- ②法令に定められている虐待防止研修、人権擁護研修、安全・災害対策研修については、それに類する取り組みは事業所毎に実施したが、年明けからの新型コロナ対策等の影響から、県の研修が開催されず伝達研修の実施には至らず、他の研修においても年度末は自粛傾向となり、明確には実施できなかった。
- ③主任研修についてはマネージャー型を6回、プレーヤー型を4回実施した。
- ④その他については、例年通り、新人職員研修や研修部による研修を開催するとともに各事業所毎に必要な応じ外部研修に参加する等、人材育成に取り組んだ。

4. 地域における関係機関との連携

各事業所において授産活動や行事を通じて拠点地域の関係団体・町内会・住民等との交流や企業との連携、行政・医療・保健・福祉団体との連携をすすめてきた。そのほか、各種団体への役員や委員の派遣、講師等の派遣などあらゆる場面において協力関係を保つ取り組みを継続するとともに、行政の各種会議への参加や委員の派遣を通して連携強化を図った。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

法令・制度を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行った。他の株式会社や特定非営利法人にはない連携や地域交流を図り「給付」の対象とならない活動も積極的に行った。

その他、法人内に「居住支援部」を設置し、地域全体の課題となっている障害者や高齢者等の住まい問題、空き家・空き室問題を改善することを目的とした「居住支援事業」を実施し、居住相談を行いながら課題解決に向けて取り組みを始めた。

6. その他

本年度も法人全体の新年会を実行委員会形式により開催した。各事業所間の交流を図った。今年度も300人近い参加があった。

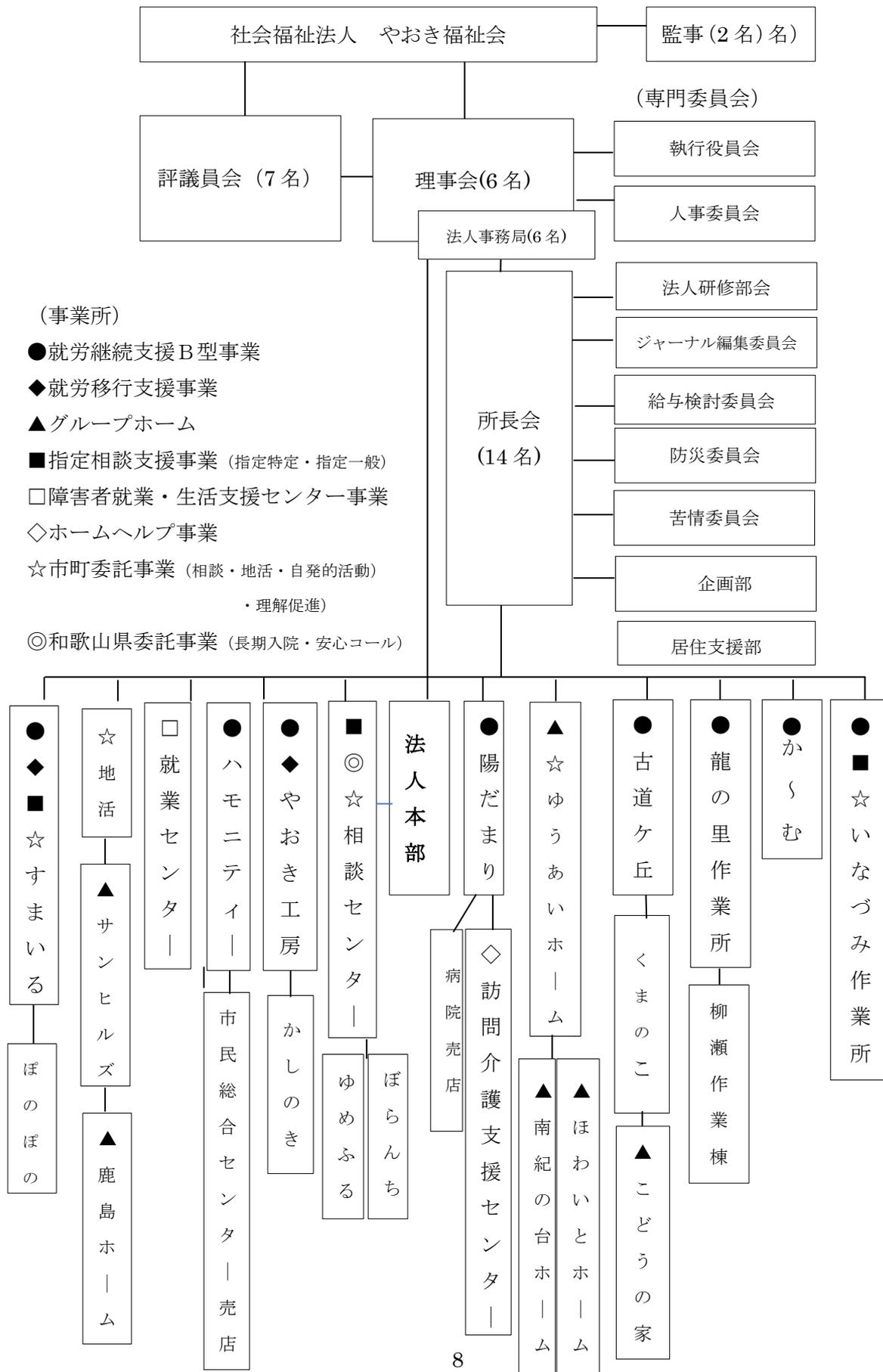
7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4月	01日 辞令交付式・勤続表彰式 02日 法人事務局会議 09日 執行役員会 15日 所長会議 23日 執行役員会	16日 苦情担当者会議 20日 企画部会 研修部会
5月	07日 法人事務局会議 09日 監事説明 14日 執行役員会 20日 所長会議 21日 監事監査 25日 理事会 28日 執行役員会	9日 研修部会 16日 企画部会 17日 主任研修(マネージャー)) 24日 新人職員研修① 31日 新人職員研修②
6月	04日 法人事務局会議 11日 執行役員会 15日 評議員会 17日 所長会議 18~24日 理事長退任挨拶周り 21日 理事長引継ぎ式 25日 執行役員会	5日 ボラ事業会議 6日 企画部会 7日 新人職員研修③ 7日 ジャーナル編集委員会 84号 12日 ジャーナル 83号発行 14日 法人研修(事業計画) 17日 研修部会 18日 苦情担当者会議 27日 企画部会 28日 後援会総会

7月	01日 執行役員会 02日 法人事務局会議 22日 所長会議 27日 理事会（一次補正） 30日 執行役員会	4日 ボラ事業会議 17日 研修部会 19日 主任研修（マネージャー） 25日 ボラ事業会議
8月	07日 法人事務局会議 19日 所長会議 28日 執行役員会 29日 人事委員会	1日 企画部会 6日 ボラ事業会議 7日 研修部会 20日 苦情担当者会議 26日 居住支援部会 27日 ボラ事業会議 28日 企画部会 30日 主任研修（プレーヤー）
9月	03日 法人事務局会議 18日 所長会議 25日 執行役員会	8日 ジャーナル 84号発行 9日 ジャーナル編集委員会 85号 13日 企画部会 20日 主任研修（マネージャー） 24日 ボラ事業会議 30日 居住支援部会
10月	01日 法人事務局会議 16日 人事委員会 21日 所長会議 30日 執行役員会	8日 ボラ事業会議 11日 企画部会 18日 後援会チャリティーゴルフ 18日 主任研修（プレーヤー） 23日 苦情担当者会議 24日 居住支援部会 25日 法人運動会
11月	05日 法人事務局会議 18日 所長会議 27日 執行役員会・人事委員会 29日 理事会（2次補正）	1日 企画部会 5日 ボラ事業会議 18日 後援会寄付贈呈式 19日 企画部会 15日 主任研修（マネージャー） 22日 居住支援部会 26日 ボラ事業会議 26日 企画部会
12月	01日 一般正職員任用試験 03日 法人事務局会議	10日 ボラ事業会議 13日 法人研修（接遇）

	04～5日 所長ヒアリング 16日 所長会議 25日 執行役員会 26日 人事委員会	16日 主任研修（プレーヤー） 18日 苦情担当者会議 19日 ボラ事業会議 23日 居住支援部会 24日 ジャーナル編集委員会 26日 ジャーナル 85号発行 26日 企画部会
1月	07日 法人事務局会議 20日 所長会議	5日 発達障害研修 7日 ボラ事業会議 11日 啓発ライブ 17日 主任研修（マネージャー） 24日 法人新年会 27日 居住支援部会 30日 企画部会
2月	04日 執行役員会 法人事務局会議 12日 人事委員会 17日 所長会議 21日 理事会（3次補正） 25日 人事委員会 27日 執行役員会	18日 苦情担当者会議 21日 主任研修（プレーヤー） 26日 居住支援部会
3月	03日 法人事務局会議 16日 所長会議 19日 南紀の台ホーム工事入札 20日 理事会（事業計画・予算） 26日 執行役員会	23日 ボラ事業会議 25日 ジャーナル 86号発行 25日 ジャーナル編集委員会

8. 法人組織（令和元年度の組織及び実施事業）



指定相談支援事業 「紀南障害者地域生活支援センター」

1. 運営概況

令和元年度は、サービス等利用計画作成を行う「指定特定相談支援」、入院患者の退院を支援する地域移行支援サービス、地域移行後の定着を支援する地域定着支援サービスである「指定一般相談支援」、田辺市・白浜町の委託を受けた「委託相談支援」、白浜町の「自発的活動支援事業」、「障害者地域啓発等理解促進事業」、和歌山県から委託を受けた「長期入院精神障害者地域移行促進事業」に加え、国交省の補助事業として「居住支援事業」の7種9事業を実施した。

令和元年度の特徴としては、障害者総合支援法のもと、市町において「生活支援拠点」と「基幹相談支援センター」の設置義務が生じたことから、委託相談支援と連動する「西牟婁圏域自立支援協議会」において検討を行うなかで、これまで市町格差のあった「委託相談」を「圏域システム化」に変更するための検討が行われた。これは2年度も継続され、3年度から新たな体制で圏域の委託相談が開始されることとなっている。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談支援 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

福祉サービスの利用希望者への「サービス等利用計画の作成」に関する相談支援を実施した。計画相談の給付は脆弱な月額給付となっているため、特定事業所加算を取得できるよう準備を行ったが、要件となる国の「主任相談支援専門員研修」の開催が遅れ、県として元年度中の実施がなかったため、加算取得には至らなかった。

計画相談実施体制としては相談支援専門員の分担で実施していたが、運営概況に記載した「圏域委託相談システム」の開始に向けて、本事業所にも大きな影響があったため、法人内の実施体制を一部変更するとともに、3年度に向けた体制検討が求められている。

② 指定一般相談支援（地域相談支援）

精神科病院からの「地域移行支援（退院支援）」については、病院からの要請もなく、制度の利用はなかった。ただし、制度利用は行わずに独自の支援により、退院前後の支援を行った。退院後の安定、又は、地域生活の安定を図る「地域定着支援」については、地域生活に見守りが必要な人に対して、電話相談・定期訪問・緊急時の支援等を実施した。対象者は5名であった。

③ 市町相談支援事業（委託相談支援）

田辺市及び白浜町から一般的な相談支援の委託を受け、地域生活等に関するあらゆる相談を実施した。それぞれの委託形態は以下のとおりである。

（田辺市）

名称 田辺市障害児・者相談支援センター「ゆめふる」

所在地 田辺市民総合センター2階

運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会
派 遣 やおきより専任相談支援専門員 1 名（常勤換算 1 名）
実績等 年間相談支援件数 8, 472 件（4 法人合計）

（白浜町）

名 称 白浜町障がい児・者相談支援室「ぼらんち」
所在地 白浜町 1 2 7 9 - 9
運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会
派 遣 やおきより兼務相談員 3 名（常勤換算 0. 8 名）デイサロン補助（週 1 日 6H）
実績等 年間相談支援件数 4, 494 件（2 法人計）

（相談センター事務所）

所在地 田辺市下三栖 1475-201 （本部敷地）
サテライト 田辺市新庄町 2,744-58 セレナヴィータビル 2 階 B 号
指定事務所である相談センターにおいては、ゆめふる・ぼらんち以外の相談として、
3,852 件の支援を行った。うち、圏域外利用者は 252 件であった。

④ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県から委託を受け、精神科病院で長期入院となっている「退院したいという意思が芽生えていない人」を対象として退院意欲の喚起を目的として支援を行った。前年度末で 2 名の利用者支援が終了し、元年度からは新たな利用者 1 名に対して支援を行った。支援を開始後、本人の意欲に変化が見られ、高齢施設への退院に向けてすすんでいる。
（支援回数 38 回）

そのほか、職種間の連携会議を月 1 回開催し、事例検討を行うとともに、各種情報等を共有し、チーム支援の円滑化を図った。また、田辺保健所と共催し、「住宅セーフティネットワーク制度と居住支援の理解研修」を行った。

⑤ 白浜町自発的活動支援事業

白浜町からの委託を受け、日中の福祉サービスの利用に馴染まない人たちに対して、週 1 回のデイサロンを提供するとともに、月 1 回、調理体験・茶話会・アウトドア（季節行事、ドライブ等）等のプログラム活動を行った。利用者の増加傾向は維持されており支援体制の確保に難しさがあった。利用者数は、登録者 28 名、年間延べ人数 334 名、月平均利用者数 12, 6 名であった。

⑥ 白浜町啓発等理解促進事業

啓発研修を実施するとともに町との懇談会や町内のフェスティバルに参加した。
（10 月：しら・はぐフェスティバルへの参加、12 月：啓発講演会：ネット依存研修、1 月：啓発映画上映会：東日本大震災を題材にした映画「星に語りて」の上映、白浜福祉サービス事業所の紹介パンフの作成・配布）

⑦ 居住支援事業 居住支援法人事業の申請を行い、8 月～1 月において居住相談支援を実施した。対象者は 14 名、支援件数は 689 件（入居前支援 168 件、入居中支援 510 件、

退去・死亡時の支援 11 件) で、その他、啓発・ネットワーク活動を行った。

3. 地域ネットワーク活動

①西牟婁圏域自立支援協議会活動

地域移行部会精神部会の事務局を担い、精神障害者の地域医療と地域生活における諸課題について協議を行うとともに年金制度理解研修、ピアサポート研修、和歌山県医務課との懇談会、居住支援を考える理解研修を実施した。

②田辺市委託相談支援事業所協議会（ゆめふる運営協議会）活動

4 法人による「ゆめふる」の協働運営について、毎月、協議を行うとともに、市町行政のすすめる「地域生活支援拠点」「基幹相談支援センターの設置」「委託相談の圏域市システム化」について協議を行い、方向性の共有を図った。

③ 医療・保健連携会議の開催

地域の精神科医療等の課題に関し、長期入院患者地域移行促進事業の推進を目的に、医療・保健・福祉による連携会議を毎月開催した。そのほか、県の主幹する連絡会に年 2 回参加し、状況報告と課題提言を行った。

④ 白浜町委託相談協議会（ぼらんち会議）活動

町とぼらんちの連携会議に加え、町内福祉サービス事業所の連携を目的として「白浜町福祉サービス事業所連絡会」に参加した。

4. その他の活動

① 計画相談改定を踏まえ、法人内外において研修を実施した。また、支援の向上を求めて事業所内での事例検討や法人研修、他機関の実施する研修等に参加した。

② 大学及び専門学校から「精神保健福祉士」取得過程の学生を受け入れ「援助実習」を実施した。

③ 行政及び諸団体の委員・役員等を担い支援協力等を行った。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4 月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（和歌山城） 計画相談説明会
5 月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（紅クラゲ再生生物学体 験研究所）
6 月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（パビリオン）
7 月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（かき氷） 長期入院・精神部会研修

8月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（殿山ダム）、
9月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（バーベキュー）
10月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（カラオケ、買い物、焼き芋）、白はぐフェスティバル
11月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（串本）
12月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（クリスマス&忘年会） 居住支援研修、ネット依存研修
1月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（カラオケ、買い物、ボーリング、映画、梅林） 防災啓発映画（白浜）
2月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（鍋パーティー）
3月	サービス等利用計画の作成、一般相談（ゆめふる・ぼらんち）、 地域定着支援・長期入院者の地域移行支援	デイサロン（イチゴ狩り、公園）

6. 数値実績（委託相談・指定特定相談・指定一般相談）

項目	ゆめふる（4法人）	ぼらんち（2法人）	相談センター
職員数（常勤換算）	ゆめふる全体（7人） やおき派遣数（1人）	ぼらんち全体（2.6人） やおき派遣数（0.8人）	1.2人
相談支援件数計	8,472件（4法人）	4,494件（2法人）	3,852件（相談センター事務所）

相談センター障害別相談件数

精神障害	知的障害	身体障害	発達障害	高次脳	難病	不明
5,234	1,028	389	148	112	7	5

相談センター年代別相談件数

実人数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	児童
233人	31	937	1,083	1,859	1,880	876	47	66（7人）

7. 県委託事業支援件数

事業 / 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
長期入院事業 （2人）	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	38

就労移行支援・就労継続支援B型事業所

令和1年度 やおき工房事業報告書

1. 運営概況

今年度は就労移行支援事業（定員 10 名）と就労継続支援事業 B 型（定員 24 名）の 2 事業の多機能型として運営を行った。

就労移行では、例年になく利用希望者が多く、定員を 2 名増員し 10 名とした。就職者は 6 名であった。その内 2 名が退職となる。（病状の悪化による職場不適合 1 名、就労への意識付けが低く職種の不適性とストレス耐性の弱さによる退職 1 名）定員を増やした影響もあり就労定着実績（6 か月以上の就労継続）が 3 割未満となり次年度は大幅な減収が見込まれる。就労定着支援の必要性が増しており、運営の安定化も考慮し、次年度は就労定着支援事業も併せて実施する予定である。

就労継続 B 型では、施設外就労とバスマット作業が順調であり、昨年度より始めた製菓事業も徐々に軌道に乗ってきており、販売事業全体の増収もあり工賃向上を一定図ることができた。きくらげチュウールの OEM（製造委託）については途中で尻すばみしてしまい上手くいかなかった。

新型コロナウイルスの影響によりお土産物屋やレジヤ施設等の休業が相次ぎ、2 月途中から菓子箱折（EH 製菓、福菱等）の受注がほぼなくなっている。内職については、ハモニティーの協力を得て亀井商店の作業でなんとか食いつないでいるのが現状である。

2. 事業報告

①就労支援活動

就労移行

- ・利用状況としては、17 名（延べ利用者数 2,762 人、1 日平均利用率 10.1 人）が利用し、6 名が就職。（4 月 居宅介護事業所ヘルパー、6 月 ホテルリネン・清掃、8 月 県農・製造、1 月 田辺市公園整備・清掃、梅加工業・製造、3 月 むさしりネン・清掃）他に、1 名が町家カフェ（B 型）に移り、もう 1 名は進学のために退所した。
- ・給食事業では、年間延べ 16,008 食を提供した。給食提供日数は 219 日で、1 日あたりは平均 73.09 食であった。昨年度に比べて 1 日約 4 食減となった。
- ・今年度も空の日フェスタ（9/28）のバザーを活用して、利用者中心で出店物や予算・準備・実施に至るバザー運営が行えるようにサポートした。稼いだ収益で秋津野ガールズで食事会を行った。
- ・就労への意識付けや就労スキル獲得のため、『就職活動支援セミナー』（9/25 和歌山県経営者協会 就職支援センター）や『JST（ジョブスキルトレーニング）』（3/6 就業

センター)に参加した。

- ・就職することとともに、「就労を続けること」・「就労定着すること」が利用者にとっても事業運営にとっても非常に重要になってきている。次年度の就労定着支援事業の運営も見越し、就業センターにノウハウを頂きながら、就労移行支援事業所としての就労定着支援に力点を置いていく必要がある。

就労継続 B 型

- ・利用状況としては、35名(延べ利用者数5,126人、1日平均利用率20.3人)が利用した。退所者4名の内2名は病状の悪化によりグループホームを退所し精神科に入院となった。あとの2名は就労移行への転籍である。新規利用者も増えてきてはいるが通所が不安定な方も多く、その支援も課題となっている。
- ・4ヶ所の施設外就労とバスマット作業が順調に推移したため収入増を図ることができた。また、製菓事業での増収が徐々に図れていることと上富田町より雑草除去指定事業所の指定を受け、数件の発注があり臨時収入になったことも一因である。
- ・製菓事業では、きくらげチェイールのOEM(製造委託)は年度途中より注文が激減し、後半には注文さえなくなるという状況に至った。マドレーヌは地域に徐々に浸透しつつあり紀菜柑でも置いて頂けることになり少しずつ販路は拡大している。また、きぼうの木からは母の日のコラボ商品として200個の受注があった。西牟婁自立支援協議会からも講師御礼用として複数回の注文を受けた。
- ・りさいくる手作りメモ帳は、上富田町マスコットキャラクター「ひょうたんせんばい」の使用許可を受けた。今年度はアビリンピック粗品(70冊)や障害児者父母の会の親子のつどい交流会記念品(20冊)、田辺市自殺予防週間街頭啓発物品(100冊)、和歌山県障害者週間街頭啓発物品(150冊)、サムハラ弁慶まつり用(1,800冊)、やおき後援会ゴルフコンペ参加(140冊)、廣畑総合保険粗品(300冊)、和歌山県火災予防啓発物品(50冊)として活用頂いた。その他、Ecoピカセスキについては、コーナン上富田店産直館で販売する等販路拡大に努めたが売り上げはそれ程伸びていない。
- ・地域バザーにも出店した。イノブタまつり(5/3すさみ町)、ヤーヤーまつり(8/8田辺市)、地域福祉フォーラム(9/1田辺市)、しらはぐフェスティバル(10/20白浜町)、福祉映画上映会(1/25田辺市)、ふれあい文化祭(2/15田辺市)でのバザー出店を行った。更なる売り上げ増に向けて、それぞれのバザーに応じた売れ筋商品の検討等が必要である。
- ・三栖地区ならではの季節作業として梅拾い作業に今年も取り組んだ。利用者10人がかかわった。また、はまゆう支援学校3年生も4人が挑戦した。

②生活支援活動

- ・自治会活動を支援し、自治会役員を中心にレクリエーション等の企画の立案・実施・

会計等が行えるようサポートした。

- ・土曜開所（17回）を実施し余暇支援に努めた。
- ・健康診断を年1回行い精密検査等が必要な利用者については、家族等と連携しながら受診同行を行う等健康管理の支援に努めた。昨年度の家族懇談会では健康指導等を希望される家族も多かったため、田辺市役所の保健師・管理栄養士の協力を得て健康講座を開催した。利用者27名が参加し運動や食生活・タバコの害等について学習を深めた。
- ・NPO情報セキュリティー研究所の協力を得て『さいばと君出前講座』（3/18）を開催した。インターネットやSNSに潜む危険とその対策、安全に使うために知っておきたいこと等の講義を受ける。利用者28名が参加した。
- ・防災訓練「避難訓練及び消火訓練・水害についての講義」（11/20）、「避難訓練及び消火訓練・煙体験」（2/26）を実施し防災意識を高めた。
- ・第16回精神障害者ソフトバレーボール和歌山大会（11/29 和歌山ビッグウェーブ）に向けて、陽だまり・ゆうあいホーム・やおき工房の混成チーム14名が参加し、9月より月2回程度の練習を重ねた。大会では2回戦で敗退となったが、優勝常連チームのブラックハーツから1セットをもぎ取り、次への手ごたえを感じる大会となった。

③個別処遇関係

- ・利用者の希望やニーズ把握に努め、個別支援計画を作成し支援に当たった。定期的に支援の見直しを行った。必要に応じて家庭訪問を実施し家族の意見の聴取にも努めた。
- ・精神的に不調を来し休所しがちの利用者等には受診同行や服薬支援を行った。（5名）
- ・就職等に向けて原付免許の取得を希望する利用者2名に免許取得支援を行い全員取得できた。このところ利用者の原付や自家用車による交通事故が増えてきている。交通事故を繰り返す者も多く安全運転の意識付けが必要である。
- ・A型事業所等の利用を希望する利用者には、見学の同行や利用の調整を行った。（町家カフェ1名）
- ・紀南こころの医療センターの精神科訪問看護を利用している利用者4名については、年1回程度、訪問看護師と情報交換を行った。（11/5）
- ・介護保険サービスの併用利用者については、地域包括支援センターのケアマネジャーやデイサービス事業所・居宅介護事業所等との連携に努めた。
- ・家族懇談会（3/14）を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止することとした。

3. 地域交流・地域貢献活動

- ・バザー活動（7ヶ所）を行い、地域交流・地域啓発に努めた。
- ・城山台子供夏祭り（8/24）を通じて子供たちに楽しんでもらい地域交流・地域貢献に

努めた。今後も参加予定となっている。

- ・田辺市自殺予防街頭啓発活動（9/11）や赤い羽根街頭募金活動（10/1）に協力した。
- ・他団体（商工会等）や地域の幼稚園・三栖地区の子供会等にバザー物品の貸し出しを行い有効活用して頂いた。

4. その他の活動

- ・はまゆう支援学校高等部 3 年生 5 名を就業体験で受け入れた。
- ・みはま支援学校高等部 3 年生 1 名を現場実習で受け入れた。
- ・紀南看護専門学校 3 年生 28 名を精神科看護実習で受け入れた。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4 月	お花見（みなべ町島ノ瀬ダム） 土曜開所「作業」 紀南看護学校看護実習 5 名	10 月	赤い羽根街頭募金（田辺市） 土曜開所「作業」 やおき運動会（田辺スポーツパーク） 紀南看護学校看護実習 9 名
5 月	イノブタバザー（すさみ町海水浴場） 紀南看護学校看護実習 5 名	11 月	一泊旅行（大阪、神戸） 防災訓練「避難訓練・水害講座」 精神障害者バレーボール大会（和歌山市） 土曜開所「作業」
6 月	イオンモールレク（泉南市） 土曜開所「エネラン&和わ」（白浜町） はまゆう支援学校 3 年生就業体験 5 名 紀南看護学校看護実習 5 名	12 月	忘年会 ボウリング&温泉・食事 （ジストボウル田辺・かんぽの宿）
7 月	みはま支援学校 3 年生現場実習 1 名 DVD 鑑賞会（やおき工房）	1 月	初詣&喫茶（闘鶏神社・桜香） 土曜開所「うすいまさとライブ」（ビッグ U） 映画鑑賞会（ジストシネマ田辺） やおき福祉会新年会（ビッグ U） 福祉映画上映会バザー（紀南文化会館）
8 月	ヤーヤー祭りバザー（田辺市） 土曜開所「作業」 城山台子供夏祭り（田辺市城山台） 土曜開所「BBQ」（かしのき）	2 月	観梅（みなべ梅林） ふれあい文化祭バザー（田辺市） 土曜開所「作業」 防災訓練「消火訓練・煙体験」
9 月	自殺予防街頭啓発（田辺市） 空の日フェスタバザー（白浜町） 紀南看護学校看護実習 4 名	3 月	健康講座（やおき工房） 土曜開所「作業」 さいばと君出前講座（やおき工房） 健康診断（白浜はまゆう病院） 年度末食事会（やおき工房）

6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	31年4月	2年3月	31年4月	2年3月
定員	10人	10人	24人	24人
実利用者数	14人	11人	31人	31人
1日平均利用者数	12.42人	7.70人	22.52人	19.40人
職員常勤換算配置数	2.9人	3.3人	6.8人	6.3人
年間稼働日数	総稼働日数	休日開所日数	総稼働日数	休日開所日数
	278日	44日	253日	17日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	給食事業	5,534,580	受託作業	2,224,682
	職場実習	1,241,383	施設外就労	2,069,066
	受託作業	463,834	販売事業	1,238,632
	施設外就労	264,480	給食事業	150,940
	販売事業	259,052		
	計	7,763,329	計	5,683,320
工賃実績(一人当たり)	当初目標	実績	当初目標	実績
	なし	29,609円 (時給303円)	12,500円	15,964円 (時給301円)

7. 利用者の年齢層(H31年3月末時点)

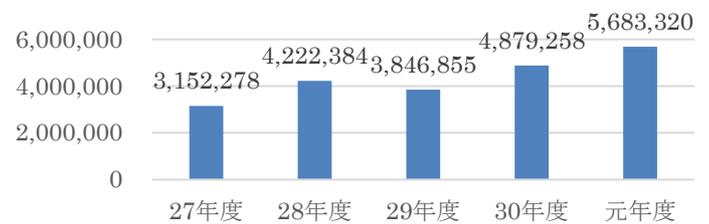
性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	1	11	3	6	6	1	28
女	1	2	3	3	2	2	13
計	2	13	6	9	8	3	41

(平均年齢：移行 25.8才、B型 43.9才、総合 39.5才)

過去5年間の授産売上の推移
(移行)



過去5年間の授産売上の推移
(B型)



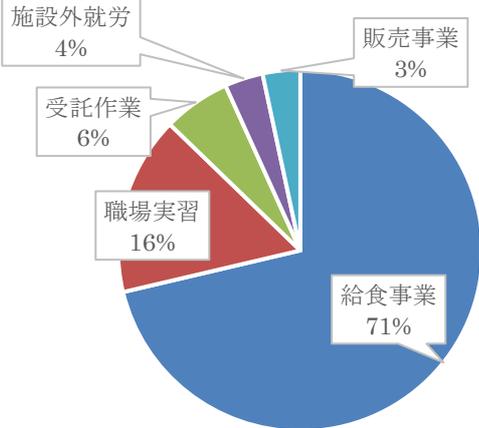
過去5年間の平均工賃実績の推移
(移行)



過去5年間の平均工賃実績の推移
(B型)

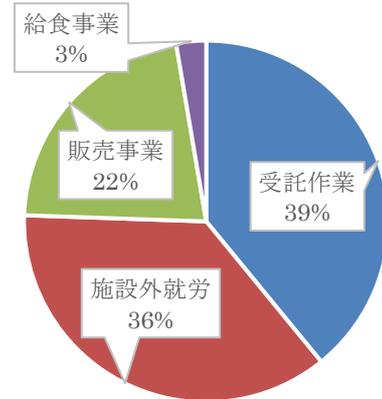


授産売上内訳（移行）



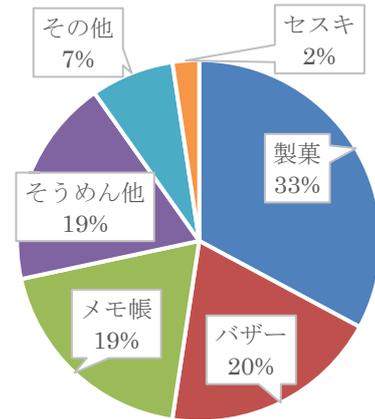
■ 給食事業 ■ 職場実習 ■ 受託作業 ■ 施設外就労 ■ 販売事業

授産売上内訳（B型）



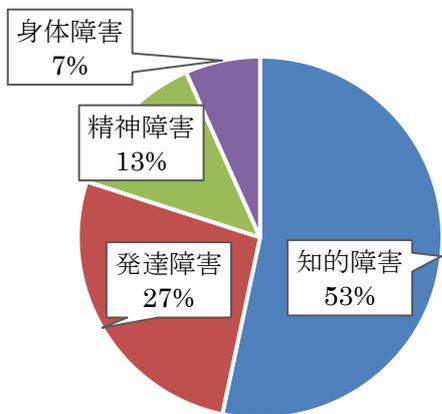
■ 受託作業 ■ 施設外就労 ■ 販売事業 ■ 給食事業

販売事業内訳（B型）



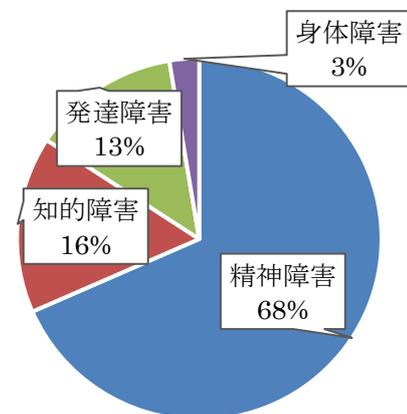
■ 製菓 ■ バザー ■ メモ帳 ■ そうめん他 ■ その他 ■ セスキ

障害別の利用者の割合（移行）



■ 知的障害 ■ 発達障害 ■ 精神障害 ■ 身体障害

障害別の利用者の割合（B型）



■ 精神障害 ■ 知的障害 ■ 発達障害 ■ 身体障害

介護サービス包括型共同生活援助

ゆうあいホーム

1. 運営概況

令和元年度当初は、2室が空床という状況でスタートしたが、2名の退所者があり、新規利用者の受け入れは1名にとどまった事から、空床が3室となっている。また、年度内に入院治療が必要になった利用者は6名で延べ入院回数は14回であった。内訳は、精神科病院に12回、総合病院内科2回という状況だった。2名の退所者については、加齢に伴う病状の変化により、精神科病院への入退院を繰り返す中で、継続しての入院治療が必要との判断に至り、退所する事となった。

また、年度内に利用者が外泊した後、連絡がつかず行方不明となった事例もあった。結果的に無事に発見され、ホーム生活を継続する事となったが、改めて利用者の心身の健康に関心を持つことの重要性や、一人一人の生命の重みを痛感する事象であった。

2. 事業報告

① 生活支援活動

平日の朝食、夕食の給食提供を継続して実施した。歩行の不安定な利用者については、最寄りの共有スペースで喫食して頂くなど、安全を優先して食事提供を行なうよう努めた。

休日については、買い物支援や仕出し弁当の発注等により、それぞれのホームの実情に合わせて、利用者の喫食に関する支援を行なった。

ほわいとホームでは月1回、ゆうあいホームでは不定期であるが調理実習を実施し、調理を体験する機会を設けた。

血圧測定や検温、体重測定等を継続的に実施し、利用者の健康状態の把握に努めると共に、必要に応じて医療機関の診察等につなげる支援を行なった。

居室整理や入浴の習慣化に対する支援を、継続して行い衛生面の向上に努めた。

失禁時やオムツ交換等の汚物処理について、適切な処理や対応に努め、当事者の衣類や居室の衛生保持に努めた。

インフルエンザ予防接種の実施や、館内共有スペースの清掃、食毒作業を行ない、館内での感染症の発生防止に努めた。

② 個別処遇関係

定期的に面談を実施し、アセスメントに基づく個別支援計画の作成を行ない、半期毎にモニタリングを実施した。

支援が必要な利用者に対し、金銭管理や服薬管理等を行なった。
 血圧測定や水分接種量等の見守り確認を、医療機関の指示に沿う形で実施した。
 必要に応じて受診同行等、医療機関との連携により支援した。

3. 地域交流活動

他事業所と協力して、精神保健福祉センター主催のソフトバレー大会に参加した。
 地域行事ふれあい文化祭に担当者を派遣し、その実施に協力した。

4. その他の活動

紀南こころの医療センターのデイケア利用者について、年2回の連携会議を実施し、
 それぞれの取り組みについて把握し合い、連携を深める取り組みを行なった。
 保護者懇談会を実施し、活動報告を行なうと共に、意見交換の機会を持った。
 わされんの依頼に基づき、愛知県の大学生による施設見学の受け入れを行なった。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見	10月	やおき運動会
5月	イノブタ祭り	11月	グラウンドゴルフ大会
6月		12月	クリスマス会、防災訓練
7月	防災訓練	1月	初詣、やおき新年会、保護者懇談会
8月		2月	ふれあい文化祭
9月	空の日フェスタ	3月	

その他、各ホームにおいて、誕生日会や調理実習等を実施した

6. 数値実績

ホーム名	ゆうあいホーム	
定員	平成31年4月 42人	令和2年3月 42人
実利用者数	平成31年4月 40人	令和2年3月 39人
職員常勤換算配置数	平成31年4月 13.2人	令和2年3月 13.2人
年度中の入退所	入 所 退 所	1人 2人
出身市町村内訳	田辺市	14人

	白浜町	3人
	上富田町	5人
	すさみ町	2人
	みなべ町	4人
	和歌山市	1人
	御坊市	1人
	美浜町	1人
	串本町	1人
	那智勝浦町	1人
	古座川町	1人
	新宮市	4人
	三重県紀宝町	1人

7. 利用者の年齢層（令和2年3月末）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男		3人	5人	7人	3人	2人	2人	22人
女		2人	1人	6人	3人	4人	1人	17人
計		5人	6人	13人	6人	6人	3人	39人

平均年齢：48.2歳

8. ショートステイ事業、日中一時支援事業

ショートステイ利用者は11名で、内2名が新規での受入れだった。延べ利用日数は139日だった。

ショートステイ利用者の市町村内訳は、田辺市5名、みなべ町1名、白浜町2名、上富田町1名、那智勝浦町1名、新宮市1名であった。

日中一時支援事業は、白浜町より1名の方が利用された。延べ利用日数は75日で、土日祝日のご両親の就労に伴う当事者の日中見守り支援を継続して行なった。田辺市、上富田町在住の方からの利用相談は無かった。

9. 田辺市自発的活動支援事業

法人各事業所より担当者を募り、実行委員会を年間14回開催し、各種企画の準備、実施準備を行なった。

実施事業内容は、高校生とのグラウンドゴルフ交流会（参加者78名：障害者33名、高校生25名、一般20名）、陶芸教室（参加者33名）、発達障害者講演会（参加者258名）、うすいまさと発達障害啓発ライブ（参加者156名）、ダンスサークル活動支援（計8回、延べ参加者123名）の5事業に取り組んだ。

令和元年度 訪問介護支援センター 事業報告書

1. 運営概況

令和元年度は利用者数19名に対して、登録ヘルパー7名で事業を開始したが、その7名の内、3名は家族の介護や事故の影響で休職状態であったので、実質は4名の登録ヘルパーで事業を開始し、年度内に2名のヘルパーを新たに採用出来た事で、19名の利用者に対して、継続してホームヘルプサービスの提供が出来た。また各利用者のサービス利用計画の見直しを行い、従来から支給されていた家事援助や身体介護以外に通院同行や移動支援等の支給をしてもらうなど、各利用者の使えるサービスの幅が広がった事で、利用者の生活の充実に繋がった。

2. 事業報告

① 身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

② 家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行います。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物を行った。

・

③ 通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④ 移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤ 同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

・

⑥ 個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 数値実績

施設名	訪問介護支援センター			
	利用者数	31年3月 19人	31年3月 19人	自立支援 17人
登録ヘルパー数	30年4月 7人	31年3月 9人		
年度中の入退所者	入 所 退 所	人 17人		
	休 止 中	人		
利用市町村内訳	田辺市	16人	田辺市	16人
	白浜町	3人	白浜町	3人
	みなべ町	人	みなべ町	人
	上富田町	人	上富田町	人
	すさみ町	人	すさみ町	人
	その他	人	その他	人

令和元年度 陽だまり 事業報告書

1. 運営概況

令和元年度は4名が入所したが、年度内に4名が退所したので度末時点の登録人数は25名となった。通所状況においては個々の通所率が下がり年間の平均利用率は19.6名となり、前年度と比較すると1.8名減少した。この要因としては毎日通所していた数名の利用者が退所し、新たに契約した4名の利用者は全員が各日通所であり、開所当時（10年前）の「毎日作業所に通所したい」とのニーズと、現在とでは大きく変わってきている。授産面では洗濯作業や100円均一商品の袋入れ、部品組み立て、売店業務、農園（オクラの栽培）等を行い、メンバーが自身の状態に合わせ、複数ある作業の中から選択出来るようにした。

また、開所当初からのメンバーの念願であったドッグセラピーを継続して行う中で、登録者25名の内、1名の利用者が「保護犬と関わる事は苦手」との意見もあり、その点については活動場所を分けるなどの配慮を行った。また他のメンバーは自発的に保護犬の世話をするようになり、その経験を通して「幻聴で辛い時に楽になった」「通所する事が更に楽しくなった」との意見もあり、全く身寄りがない利用者からは「自分に妹が出来て生き甲斐が出来た」などの予想以上の反響があった。

また、次年度に向けての課題としては、この圏域においてB型事業所やA型事業所が飽和状態にあり「競争」が年々激化しており、以前は一年以上、見学者や新規の利用者がいない状況があり、年々運営が非常に厳しくなっているため、前年以上に各相談支援事業所やデイケア（紀南こころの医療センター）との連携を図り、更なる通所増を目指していく。

2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・ 陽だまりの方針として、就労継続B型事業所ではあるが、他の事業所と一線を画する為に「ゆっくりと安心出来る場所」を基本軸としており、現在の登録メンバーの大半が長期入院や長期引きこもり状態からの事業所利用なので、他の事業所と比較しても就労希望のメンバーは非常に少ない。但し令和元年度は2名のメンバーから就労希望についての相談があり、その2名についてはA型事業所に繋がるように支援を行い契約に至った。

② 生活支援活動

- ・メンバーの中には、特定の人に対してあいさつをしないなど露骨に態度に出す事もあり、その事が原因でトラブルになる事もあったので、個別面談や自治会の中で模擬実演等を行い、メンバーに意識改革に繋がるよう支援を行った。

(ア) 個別処遇関係

- ・個別支援計画を作成し、サービス利用者の課題や意向を確認し合い、定期的に見直しを図りながら支援を行った。
- ・利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言を行うと共に、生活相談も継続して行った。また、必要に応じて、医療機関受診同伴や、関係機関との連携を図った。

3. 地域交流活動

- ・メンバーが栽培した野菜（オクラ、ししとう等）を近隣の飲食店（喫茶店等）で販売してもらえた事で、事業所の活動について、より深く理解してもらえる事が出来た。
- ・紀陽銀行みなべ支店が開催しているグランドゴルフ大会に参加して、地域の方や事業所間交流を行った。

4. その他の活動

- ・毎月土曜日開所を実施して、メンバー参加型の調理実習を通して、休みで生活のリズムが崩れる事がないように見守り支援を行った。
- ・紀南看護学校、熊野高校看護科の学生を実習生として受け入れ、メンバーとの交流を行った。
- ・陽だまりではソフトバレーボール、釣りクラブがあり各クラブが成果を出せるように日々切磋琢磨しており、ソフトバレーボールチーム（ゆうあいホーム、やおき工房、ハモニティー、陽だまり：合同チーム）は31年度もビッグホエールで開催された大会に参加したが、今回は4位という結果であった。
- ・釣りクラブは定期的（二か月に一回程度）に活動を行っているが、31年度は一度も坊主がなく、なかなか作業に参加出来ない利用者にとっては「釣り」は日々のモチベーションを保つ活動となっている。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見(平草原)、DVD鑑賞、調理実習	
5月	パビリオンフェイ、釣り、スポレク、調理実習	
6月	スポレク、釣り、調理実習、カラオケ	

7月	納涼会(素麺・寿司・かき氷)、釣り、調理実習	
8月	外食(和食)、ドライブ、調理実習	
9月	誕生日会、釣り、調理実習、カラオケ	
10月	BBQ、弁慶祭、ソフトバレー大会、調理実習	
11月	グランドゴルフ大会、調理実習	
12月	クリスマス会、忘年会、調理実習	
1月	初詣&外食、法人新年会、調理実習、カラオケ	
2月	みなべ梅林観梅、カラオケ、調理実習	
3月	忘年会、ちゃんこ鍋パーティ、調理実習	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	31年4月 20人	令和元年3月 20人
実利用者数	31年4月 30人	31年3月 25人
1日平均利用者数	31年4月 21.4人	31年3月 19.6人
職員常勤換算配置数	31年4月 3.6人	31年3月 3.6人
年間稼働日数	総稼働日数 253日	休日開所日数 15日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	商品売上	263,000円
	農園売上	26,000円
	受託作業	2,695,755円
	雑収入	360,000円
	計 3,344,755円	
工賃実績(月一人当たり)	当初目標 8,000円	実績 9,075円

年代別表	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性		1	3	4	3	2	13
女性	1		5	4	2		12
計	1	1	8	8	5	2	25

令和元年度ハモニティー事業報告

1. 運営概況

令和元年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 23 名でスタートする。1 年間での新規利用者数は 6 名で、退所者数は 5 名であった。

① 性別・年代別(令和 2 年 3 月末日時点)

	21～30 歳	31～40 歳	41～50 歳	51～60 歳	61～70 歳	合計
男	0	2	7	3	4	16 名
女	0	2	2	2	2	8 名
合計	0	4	9	5	6	24 名

(平均年齢 51.2 歳)

② 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	19 名
知的障害	5 名
身体障害	0 名

③ 居住形態

家族と同居	13 名
一人暮らし	8 名
グループホーム	3 名

④ 利用実績(月別)

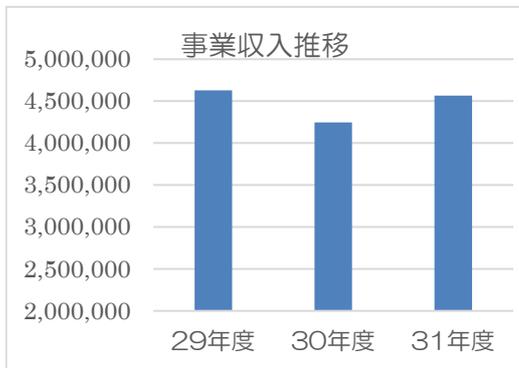
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	20.9	18.7	19.7	19.5	20.7	20.6	21.0	20.3	20.3	19.8	19.8	20.9
開所日数	20	21	21	22	18	20	22	20	20	19	19	21

(年間平均 人/月)

2. 事業報告

① 就労支援活動

- ・ 自主製品(八起焼)製造販売 ・印刷物受注販売 ・古紙、空き缶、古着回収
- ・ 受託作業(日用雑貨包装、電子部品セット、新聞帯封、売店、チラシ印刷)



作業量が減ってきていた状況の中で、梅加工業者より印刷の仕事の委託を受けられ、30年度から比較すると、事業収入、工賃ともに微増となった。

②生活支援活動

日常生活を送るうえで最低限必要な掃除や食器洗いなど当番制において実施し、生活の場で実践できるよう取り組んできた。足腰が不自由な利用者については、職員がフォローしながら、日常生活訓練の位置づけとして継続してきた。

余暇活動においては、週1回木曜日の午後に、レクリエーションや茶話会などを実施し、利用者同士の親睦や楽しみの機会を設けてきた。体力や健康維持の点では、ラジオ体操を日課とし、スポーツレクリエーションも実施してきた。

③個別処遇関係

利用者との定期的な面談や相談、日々の状態の把握に努め、自己実現に向けた個別支援計画の作成、評価を継続しておこない支援をおこなってきた。また、支援の方向性について、職員間で共有できるよう、週1回の職員会議や個別支援計画作成会議を定期的の実施してきた。

また、ゆめふるや医療機関、相談支援事業所等他機関との連携も積極的におこない、利用者が安心して暮らしていけるようサービス受給申請や新規利用の受け入れなど個別な対応もおこなってきた。

単身生活者においては、日常生活の様子について、積極的な把握に努め、衛生面や食生活についての助言、サービスについての情報提供、関係機関との連携をおこなってきた。介護保険サービスと併用利用されている利用者については、地域包括支援センターや訪問介護事業所と連携を図り、定期的なケア会議にも参加してきた。

3. 地域交流活動

古紙等リサイクル事業を通し、多くの地域住民の方々に協力をいただくことができた。古着リサイクルでは、毎日のように地域の方が事業所を訪れてこられる。

4. その他の活動

非常災害に備えるための防災学習、訓練の実施。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	4 18 20	お花見 カラオケ・漫画・ビリヤード 田辺商工フェア	動鳴気 優悦館 ハナヨアリーナ
5	4 17 23	こいのぼり祭り 釣り／カラオケ グランドゴルフ	扇ヶ浜公園 上富田スポーツセンター
6	13 20 22	買い物レク 釣り／ボードゲーム ドライブレク	パビリオンシティー ロマンシティー(御坊市)
7	4 11 25	外食レク 買い物レク 夏季賞与支給	とれとれ亭 パピシ・ユニクロ
8	1 8 10	流しそうめん、かき氷 ドライブレク BBQ	ハモニティー駐車場 白浜水族館・千畳敷 ハモニティー駐車場
9	12 19	買い物レク 外食レク	パビリオンシティー 和わ
10	1 17 19 25	赤い羽根共同募金活動 スポレク グランドゴルフ やおき運動会	パビリオンシティー 大屋体育館 上富田スポーツセンター 田辺スポーツパーク
11	7 19 21 28 29	買い物レク あゆみ保育園園児来訪 紅葉ドライブ 避難訓練 日帰り旅行	パピシ・ユニクロ 勤労訪問 近露方面 なんばグランド花月
12	5 19 26 26	忘年会 ボードゲーム クリスマス会 利用者賞与支給	かんぽの宿 テレビゲーム・将棋
1	6 9 24 30 31	初詣 茶話会 やおき新年会 利用者健康診断(1班) 利用者健康診断(2班)	闘鶏神社 おしるこつくり ビッグU はまゆう病院 〃
2	6 13 15	外食レク 観梅 ふれあい文化祭	とれとれ亭 みなべ梅林 ハナヨアリーナ
3	5 12	いちご狩り スポレク	リコリーナ 大屋体育館

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	31年4月 20人	令和2年3月 20人
実利用者数	31年4月 23人	令和2年3月 24人
1日平均利用者数	31年4月 20.9人	令和2年3月 20.9人
職員常勤換算配置数	31年4月 5人	令和2年3月 5人
年間稼働日数	総稼働日数 243日	休日開所日数 5日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託作業	2,122,212円
	印刷事業	886,999円
	古紙等リサイクル事業	395,423円
	製菓自主製品事業	141,295円
	野菜販売、物品販売等	118,750円
	売店	900,000円
		計 4,564,679円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 月額 13,800円	実績 月額 13,332円

令和元度 事業報告
(紀南障害者就業・生活支援センター)

1. 運営方針

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行っていく。

2. 事業報告

例年通り、当初計画と当事者のニーズに沿って、就業・生活支援を行ってきました。今年度は、①国等における雇用率未達成に対しての就職相談があり、当事者もそれに応募をする機会が多く、特に A 型サービス事業所からの就労が例年より多くありました。田辺市においては、雇用率を達成することも考えながら、定着してもらいたいとの意向があり、業務洗い出しを丁寧に行っていることの情報が入ってきています。しかし業務洗い出しにも苦慮しているようであり、受入環境も整えながらの進行となっているようです。そういったことに相談を受けた時には助言を行ったり、身体障害者だけの受入にならないように提言をしてきました。②19年勤務してきた当事者（重度知的障害）の問題行動による退職。高齢に伴う能力の低下は以前より相談を受けてきましたが、その状態でも継続雇用を続けてくれていました。今回の退職は能力の問題ではなく、社会ルールに対応できていなかったことが原因で就業センターからの退職を本人と家族に提示しての運びとなりました。次に急性白血病で復帰目途が半年以上による退職。雇用契約更新時に復帰できないこと、就業規則部分での退職になってしまうこと、これに関しては県教育委員会にも今後の検討事案として相談させていただいています。③精神障害者の方で60才前後での再就職。短時間労働と単純作業に従事すること、職場や同僚の理解があつてこそ継続勤務が出来ています。④精神障害者の方の断薬による不調。入院での注射投薬で安定するが、退院後当事者が注射投薬を拒否することにより、通院での服用投薬調整に時間を費やしました。⑤単身生活の寂しさから交友関係で仕事に影響を来したり、金銭煩雑があり支払いが滞っている状態になっていたり、身体的不調による一時休養からの短時間勤務復帰。それでも生活面からくる不安定さで生活拠点を GH 生活に移行することで安定して勤務できる方向になりました。⑥発達障害者の支援として、親の過干渉による就労での職種への拘りがあり、その職種に当事者の能力が伴っていない中での就労相談への対応。一般高校卒業生の障害を開示しての就労相談と定着支援を行ってきましたが、学校生活を送ることが出来ない対象者で家族の支援が求められない環境にあり、本人の状況把握ができていない中で、当事者と教師の強いでの対応をしてきましたが離職に至ったケースもありました。特に成人後の発達障害の診断を受けた方の支援で、福祉サービ

ス利用を拒み一度は就業センター支援で就職するも、再就職することが難しく在宅生活になり相談事業所が対応する方向になる困難ケースが数件ありました。年明けより少しずつ新型コロナウイルスの影響が出始め、就職先での業務減少による休業、出勤日の減少となっていました。会社都合での離職を余儀なくされるケースには至っていません。介護施設における支援に関しては、玄関先での面談か訪問禁止となっていることもあり、少し不安定さが出てきている利用者もいました。

① 就労支援活動

1) 就職に向けた準備支援（職業準備訓練・職場実習の斡旋）

- ・体験職場実習、企業内授産、インターンシップ事業活用時の同行支援

2) 求職支援活動

- ・ハローワークへの同行等による求人検索
- ・地域新聞等広報紙による求人への相談と対応
- ・独自の企業開拓

3) 職場定着支援

- ・ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）
- ・就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問
- ・職場、生活面での相談対応

4) 事業所に対する障がい者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言【9/26】

5) 関係機関との連絡調整・会議

- ・運営協議会の開催【3/12】
- ・和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議【6/11】【10/28】【2/7】
- ・特別支援学校連絡会【6/12】【8/7】
- ・ハローワークとの連絡会議【6/20】【3/19】
- ・全国就業支援 NW 定例研究会参加【6/14～6/15】
- ・近畿ブロック経験交流会【11/19】
- ・西牟婁圏域自立支援協議会定例会、就労部会活動
定例会【6/18】【8/22】【12/18】【2/10】 就労部会【6/12】【3/12】

① 圏域内就労移行事業所 4カ所との連携会議【毎月1回 指定曜日】

② 圏域内他法人間でのジョブコーチ支援【毎月第4月曜日】

③ セミナー等の開催

- ・和歌山県障害者職業センターとの連携（月1回・職業評価、拡大ケース会議）
- ・和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）
【12/6】【3/4】【個別ケース随時相談】
- ・各研修会学習会への職員派遣

・移行事業所職員・当事者への作業基礎訓練実施（JST トレーニング）【3/13】

② 生活支援活動

- 1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言
・医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理
- 2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
・行政手続き補助および代行
・ワーカーズクラブの活動補助
- 3) 関係機関との連絡調整・会議
・全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会【繁忙により不参加】

③ 個別処遇関係

- 1) ジョブコーチ支援の実施【毎月第4月曜日連携会議】【随時】
- 2) A型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- 3) B型事業所利用者の一般就職相談についての連携会議【個別ケース対応】
- 4) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施【随時】

④ 余暇活動支援

- 1) 職場定着者促進のための在職者交流活動
ワーカーズクラブ活動補助
他法人との在職者交流会（県外・県内）茶話会・スポーツ交流・語りべなど

3. 地域交流等活動

- ① 地域交流活動
- ② 地域貢献（公益）活動

4. その他の活動

5. 行事報告

ワーカーズ活動

	行事	備考
5月	他府県とのコミュニケーション研修	10名
7月	BBQ	45名
10月	1泊旅行	56名

11月	研修（生活習慣病）	45名
12月	忘年会	50名

基礎体力講座

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
46名	59名	44名	56名	51名	54名	54名	32名	57名	59名	56名	26名
3回	4回	3回	4回	4回	4回	4回	2回	4回	4回	4回	1回

6. 数値実績

登録者数 290名（内新規39名）

相談・支援件数 8,738件

職場実習 37件

就職者数 35名

職場定着支援 2,219件

センター長	1名（主任兼務）	横矢
就業支援ワーカー	1名	汐崎
主任定着支援ワーカー	1名	入口
就業支援ワーカー	2名	阿部・岡崎
生活支援ワーカー	1名	垣本
事務補助	1名	北山
ジョブコーチ	2名	西岡・杉本

紀南地域活動支援センター（Ⅲ型）

1. 運営概要

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動をおこなってきた。

2. 事業報告

①就労支援活動

日中作業は基本的に自由であるが、当事者のニーズより内職作業に取り組む。お菓子の袋詰め・雑貨の梱包作業。缶バッチ制作などを行い、月1回の企業清掃にも通所者全体で取り組み、所属感の向上を図った。

また、希望者については職場実習への斡旋、就職希望の方への就労支援も就業センターと連携を行い、令和1年度は、一般就職者は3名、他施設のサービス利用者2名となっている。

②生活支援活動

レクレーション活動を通じて調理実習、外出活動を行ってきた。

③個別支援活動

受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。

3. 地域交流活動

特に無し

4. その他の活動

特に無し

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	スポレク（高雄中）	10月	スポレク（高雄中）
5月	スポレク（高雄中）	11月	スポレク（高雄中）
6月	スポレク（高雄中・上秋津） ドライブ	12月	スポレク（高雄中） 大掃除・餅つき・たこやき
7月	スポレク（高雄中・上秋津）	1月	スポレク（高雄中）
8月	スポレク（高雄中・上秋津）	2月	スポレク（高雄中）

			遠足（観梅）
9月	スポレク（高雄中・上秋津）	3月	スポレク（高雄中）・美術館見学

6. 数値実績

（ア）月別平均利用者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	14	13	13	15	16	17
開所日数	20	19	20	22	19	17
平均利用者数	7.2	7.6	7.5	7.2	7.6	10.2

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	15	15	17	17	18	19
開所日数	21	21	19	19	19	19
平均利用者数	8.3	7.5	10.2	9.3	8.5	10.9

（イ）市町別（3月末）

田辺市	みなべ町	上富田町	すさみ町	白浜町
13人	1人	1人	1人	0人

（ウ）障害別（3月末）

知的	精神	身体	発達	その他
7人	7人	1人	0人	1人

（エ）年齢別（3月末）

～20歳	20代	30代	40代	50代	60代
0人	7人	2人	4人	1人	2人

（オ）その他

共同生活援助（グループホーム）

サンヒルズ

1. 運営概況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）・浜市社宅（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置4：1での支援を行ってきた。

2. 事業報告

事業計画での未執行については、みなべエリアの移転となり、不動産業者への依頼や地域のルートにより物件を視察してきたが築年数・部屋数・家賃が合わず現在の契約を更新することとなった。家主の好意と利用者の現状維持希望もあり当面は現賃貸契約を継続していくこととなる。田辺エリアのクローバーホームは大規模な改修が必要になることでもできたため移転を行った。

全利用者の課題となっている「職場での悩み相談」については世話人・バックアップ施設の訪問による体制を継続中。30年度退職者のうち60歳を超えての再就職者が2名。

今期退所者は1名で新規入居者が2名。退所者は単身生活希望者で居室を探す支援を行ってきたがパートナーとの同居となりシェアハウスを行うこととなる。入所者1名は支援学校卒業生。自宅は本宮町で卒業と同時に旧市内介護施設での勤務となる。もう1名は単身生活であったが生活リズムの乱れにより就労継続に難がみられ、職場との調整により一定期の休養と生活支援介入から入所に至る。（現在は安定している。）

昨年同様、家族不和によるグループホーム体験利用はあったが継続した利用には至らず。高齢化問題・利用者の健康問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。当事者のニーズで支援を行う事だけでは、その問題は解決されずマンパワーの必要性だけが感じられている。

①生活支援活動

やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。

生活指導（清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事 他）

医療同行（精神科通院同行・その他の医療機関への同行）

②個別処遇関係

就職相談・定着相談・金銭管理・個別の悩みの相談 など

3. 地域交流活動

特に無し（各ホームで町内会への加入はしている）

4. その他の活動

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月		毎週木曜スポレク 毎月第一火曜日 ワーカーズ会議
5月		
6月		
7月	ワーカーズ BBQ	
8月		
9月		
10月	ワーカーズ旅行（京都府）	
11月	睡眠講習（講師：田辺市派遣）	
12月	ワーカーズ忘年会（つぼ八）、GH 忘年会	
1月		
2月		
3月		

6. 数値実績

7. 利用者の年齢層

ホーム名	サンヒルズ（全体）					
	31年4月	2年3月	性別	男	女	計
定員	30人	30人	10代	1人		1人
実利用者数	27人	29人	20代	9人	4人	13人
			30代	1人		1人
職員常勤換算配置数	7.5人	7.5人	40代	2人	2人	4人
			50代	6人		6人
年度中の入退所	入 所	2人	60代	4人		4人
	退 所	1人	70代			0人
利用市町村内訳	田辺市	13人	計	23人	6人	29人
	白浜町	2人				
	みなべ町	2人				
	上富田町	2人				
	すさみ町	3人				
	その他	7人				

就労継続B型事業所

古道ヶ丘

1. 運営概況

保養所事業

・30年度の教訓（台風、地震などの災害により保養所収入の大幅ダウン）を踏まえて保養所事業の支出を抑えていくために支出の種類を精査を行った。その中でも支出と収入のバランスの差が大きい（支出が多い）ものをピックアップして調整を行った。（体育館の維持管理等）

年度末に宿泊予定であった団体（学校関係・体育競技関係）の4団体のすべてが新型コロナの影響でキャンセルとなった。

福祉事業

・高齢化に伴い2名の利用者が障害福祉の支援から介護の支援（デイサービスや老人ホーム）に行くこととなり利用者の減となった。

2. 事業報告

①就労支援活動

田辺市委託事業

- ・バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃をおこなった）
- ・施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）

田辺市との協議の中で、体育館の耐震補強、屋根・床等の修繕費用を出すことはできない。

理由（修繕費用が莫大であるのと、今後の体育館を維持していくことの費用対効果が得られない等）→今年度からの体育館の使用禁止。

- ・ブルーベリー収穫（栽培、収穫）

斜面での栽培を収穫しやすい平坦な土地に移植した。今年度はまだ根の付きがよくなく、少量の収穫となった。

授産事業

- ・施設内周辺以外の草刈（地域の老人ホーム、個人のお家）、ゴミ屋敷となっている家の片づけなど便利屋としての活動も積極的に行った。
- ・内職作業 以前からしているかげろうの箱折りと新しい内職（ダイソー）作業を増やした。

②生活支援活動

- ・年1回の健康診断を実施した。
- ・防災計画に基づき年2回の防災訓練を実施した。
- ・利用者自治会主体で季節ごとのレクリエーションを企画し行った。

③個別処遇関係

- ・個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ・高齢化にともない足の不自由な利用者が増えてきている。以前と同じメニューの作業にも参加しにくくなってきている。

3. 地域交流活動

- ・中辺路町小学校 4年生のみなさんが来所し、施設見学、歌・楽器の演奏を聞かせてくれた。
- ・中辺路中学校から夏休みのボランティア体験として、施設利用者とともに箱折り作業、バンガロー清掃を行った。
- ・町民運動会は運営委員会にも参加し利用者が参加しやすい競技なども提案した。
- ・地域の祭り近露まるかじり体験に参加した。次年度は実行員会に参加して、バザーの売り上げ向上に結び付けたい。

4. その他の活動

保養所の集客を増やしていくために広告の手段として、SNS やインスタグラムなどを活用するべく、研修や宿泊に関するネット環境を整えた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月	バザー	
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	バーベキュー、運動会	
10月	おつかれさま会	
11月	ソフトボール大会	
12月	一泊旅行、クリスマス会	
1月	初詣	
2月	ふれあい文化祭、防災訓練	
3月	班別レク	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型	
定員	31年4月 30人	R2年3月 30人

実利用者数	31年4月 27人	R2年3月 25人
1日平均利用者数	31年4月 21.2人	R2年3月 23.5人
職員常勤換算配置数	31年4月 5.6人	R2年3月 5.6人
年間稼働日数	総稼働日数 249日	休日開所日数 8日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	保養所委託事業関係	2,728,395円
	内職作業	554,087円
	アルミ缶回収など	364,680円
	計	3,647,162円
工賃実績(一人当たり)	当初目標 15,000円	実績 10,061円

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	2	0	1	2	3	0	3	11
女	0	1	3	2	4	3	1	14
計	2	1	4	4	7	3	4	25

就労継続支援 B 型 本宮くまのこ作業所

1. 運営概況

近隣バザーや本宮町内の行事等に積極的に参加し、くまのこ作業所の広報活動に力をいれ、地域交流を図った。休日開所については古道ヶ丘と合同のレク以外にも、くまのこ作業所単独で実施するのも行い、今までは参加できなかった利用者にも参加しやすい行事を実施することで、利用者の参加意欲を促進し給付費増を図った。また可能な限り利用者の予定に合わせた送迎体制を組むことで通所しやすい環境を整えた。A型作業所へ移行した利用者がいたため利用者数の減少もあったが、関係機関と調整をしていき、今までは利用できなかった利用希望者も新規利用につなげることができた。授産事業においては本宮町内の農家や製炭業者からの作業依頼を新規授産事業として定着することができた。

2. 事業報告

①就労支援活動

箱折り、野外清掃作業を中心として作業を進めてきた。自主製品（アクリルタワシ）では作業従事できる利用者が少なかつたため新たに作業できる利用者の育成に力を入れた。箱折り作業では目標枚数を設定して、作業に対するモチベーションの増加を図った。また作業の苦手な人に対しては作業の分業制を取り入れて、作業効率の向上や作業に参加しやすい環境を整えた。マコモ茶の切りそろえの作業や備長炭の梱包発送作業を新規授産事業として取り組むことができた。

②生活支援活動

年 1 回の健康診断を実施。
体重管理の苦手な人に向けて作業前のウォーキングを実施。
防災計画に基づき年 2 回の防災訓練及び非常食体験実施。
季節ごとのレクリエーションを企画及び実施。

③個別処遇関係

個別アセスメントを行い、支援計画に基づき支援を実施。

3. 地域交流活動

本宮女性会の方々と本宮大社近くの花壇に花植えの実施。
定期的なゆる体操を実施し、地域ボランティアの方々との交流。

4. その他の活動

本宮地域に事業所活動を周知する為、月1回「くまのこだより」を発行。
本宮地区のケア会議の参加。(他サービス事業所との意見交換等)

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見レク(七越) 土曜開所(調理実習) 古道レク(花見)	
5月	古道バイキング	
6月	古道バイキング ボウリングレク	
7月	花植え 健康診断	
8月	大掃除 防災訓練 休日開所(BBQ)	
9月	古道ヶ丘合同BBQ	
10月	古道バイキング ソフトボール大会	
11月	健康診断 こだま祭(バザー)	
12月	くまのこクリスマス会 一泊旅行 花植え 古道合同クリスマス会 年末大掃除	
1月	初詣 やおき新年会	
2月	古道バイキング ふれあい文化祭(バザー)	
3月	古道レク(花見) 防災訓練	

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
	定員	H31 年 4 月 10 人
実利用者数	H31 年 4 月 13 人	R2 年 3 月 12 人
1 日平均利用者数	H31 年 4 月 10 人	R2 年 3 月 8 人
職員常勤換算配置数	H31 年 4 月 2.87 人	R2 年 3 月 2.87 人
年間稼働日数	総稼働日数 249 日	休日開所日数 11 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	自販機	711,430
	受託作業（清掃）	360,000
	内職（箱折り・お茶）	266,000
	マコモ茶・備長炭	136,971
	自主製品	24,600
	アルミ缶・古紙回収	113,300
	バザー・わされん活動	76,025
	計	1,688,326
工賃実績（一人当たり）	当初目標 7,200 円	実績 6,733 円

7. 利用者の年齢層

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男	0	2	0	1	0	3	6
女	0	0	2	1	2	1	6
計	0	2	2	2	2	4	12

令和元年度 龍の里作業所事業報告

1. 運営概況

令和元年度は 20 名の利用者でスタートし、家族の病気で通所が途絶えた利用者もあったが昨年度と利用率には大きな変化は見られなかった。

年明けより新型コロナウイルスの感染拡大により、レクリエーションの自粛や作業が安定的に供給できないこともあり、作業時間の短縮などを強いられることとなった。

2. 事業報告

①就労支援活動

授産活動では、下請け作業が順調に流れていることから、自主製品の「よもぎの葉」の生産調整が行えず、顧客ニーズを満たすことができなかった。「龍神杉のコースター」「クッキー類」が例年通り地元の道の駅を中心に安定した売り上げをあげている。便利屋や農産物の生産については、自然薯をはじめとする野菜の生産販売に加え、草引きや高齢者宅の清掃などは例年通りであった。「龍神マッシュ」での施設外就労では、就労をめざす利用者の準備機関として重要な役割を果たしている。利用者一名がトライアル雇用で地元宿泊施設に就労が決まり、現在も継続できている。

平均工賃の推移（月額）

28年度	29年度	30年度	令和元年度
8,314円	8,683円	11,461円	10,869円

②生活支援活動

日々の生活課題や金銭管理などについては、社協や行政局と連携して制度の活用を進め、問題解決に努めた。

健康面で課題のある利用者に関して田辺市の特定保健指導を積極的に受けられるよう支援した。利用者全員に対しては、栄養士や保健師による健康指導を実施し、生活習慣の改善への対策を行った。

③個別処遇関係

個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

④余暇活動支援

月一回程度のレクリエーションでは、社会生活体験を重視し、目的を持った取り組みを行ったが、3月のレクリエーションは新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

3. 地域交流活動

地元では翔龍祭や地域のイベントに参加し、舞台発表では利用者の踊りを披露、利用者自身が主体的に参加することができた。地元社会福祉協議会主催のバスツアーに参加し、地域住民との交流を深めた。

4. その他の活動

避難訓練（年二回）を実施。

健康診断は全員実施したが、40歳以上の利用に関しては、住民健診を勧め、より詳細な項目によって検査を行った。

5. 行事報告

月	行事等	備考
4月	ハイキング（新庄公園）	
5月	ボウリング	
6月	カラオケ、健康診断（40歳以上）	
7月	買い物レク（和歌山イオン）	
8月	大掃除	
9月	高齢者交流会	
10月	一泊旅行（神戸有馬方面）、避難訓練、グラウンドゴルフ大会、血管いきいき教室	
11月	やおき運動会、社協バスツアー（アドベンチャーワールド）、	
12月	大掃除、忘年会	
1月	初詣（本宮大社）、やおき新年会	
2月	ふれあい文化祭、健康診断（39歳以下）	
3月	避難訓練	

6. 数値実績

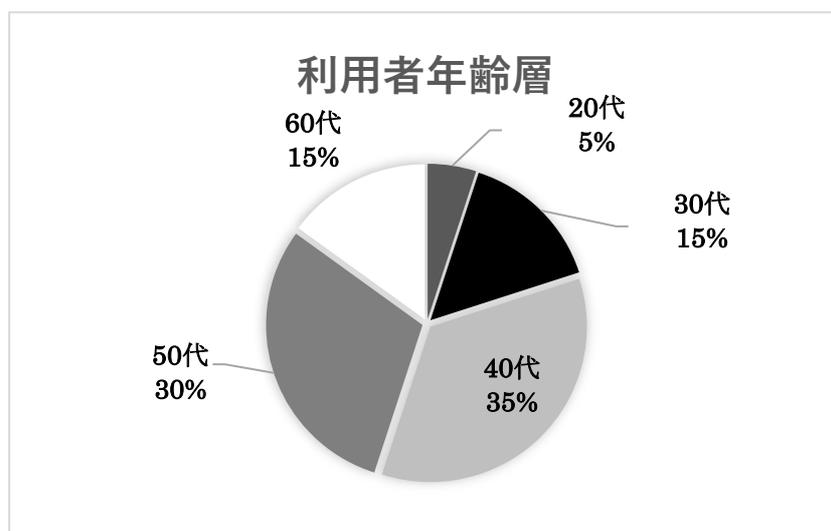
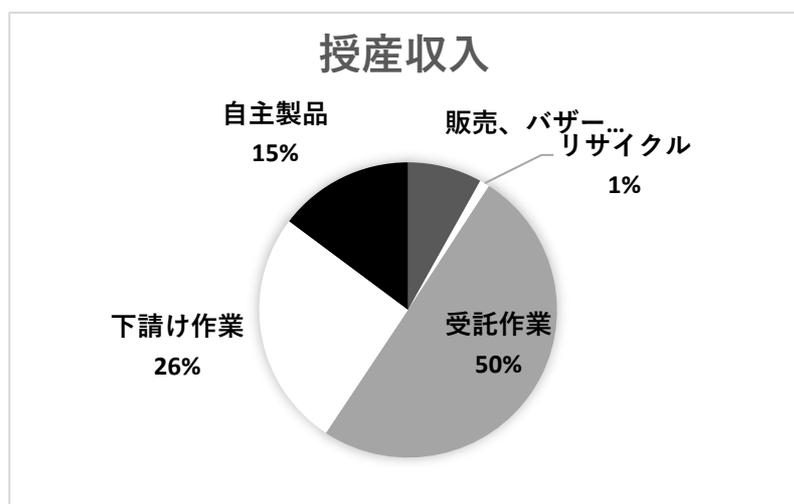
種別	就労継続支援B型	
定員	30年3月 20人	31年3月 20人
実利用者数	30年3月 20人	31年3月 20人
1日平均利用者数	30年3月 15.9人	31年3月 16.1人
職員常勤換算配置数	30年3月 5.4人	31年3月 5.4人
年間稼働日数	242 休日開所日数 4日（うち振替3日）	242 休日開所日数 4日（うち振替3日）
工賃目標（一人当たり） 当初 12,000円	実績 <u>10,869円</u> <u>266円（時給）</u>	

授産科目及び授産収入	科目		収入（円）
	自主製品	お菓子	335,450
		龍神杉のコースター	14,990
		よもぎの葉	71,692
		アクリルたわし	28,399
		農作業	137,502
	小計		588,033
	下請け作業	ねじ袋詰め	71,949
		亀井商店	489,632
		椎茸シール貼り	279,200
		梅シール貼り、箱おり	194,390
	小計		1,035,171
	受託作業	龍神マッシュ実習	445,000
		便利屋	296,210
		花いっぱい運動	1,260,000
	小計		2,001,210
	リサイクル	アルミ缶回収	40,835
		高尾運輸	2,121

	小 計		42,956
販売、バザー等	そうめん、うどん販売		174,700
	チョコレート		145,070
	花苗		2,000
	小 計		321,770
総 計			3,989,140

7. 利用者の年齢層

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	0	0	1	3	3	1	7
女	0	1	2	4	3	2	13
計	0	1	3	7	6	3	20



令和1年度 か～む事業報告書

1. 運営概況

前年度の1日あたりの平均利用者数13.3人に対し、令和1年度も13.3人と前年度と変わらず。新規利用者の受入れが3人に対して、退所者が1人であり、登録者数は2人増となっている。退所理由としては、精神的、肉体的な疲れなどで3ヶ月以上通所がみられず、何回か家庭訪問をして本人、家族と話し合う。通所する意欲があまりない為一旦退所という形をとる。

前年度初めにアンケートをとり、毎週木曜日のレクリエーションより作業が良いという意見が多かった為、月に1回ほど作業日にする。季節ごとの行事、多人数が苦手な人の為の班別レクは変わらず取り入れ、作業だけではない「ゆったり型」の作業所として運営に努めた。又、1日通所が難しい利用者が多い為、3回の送迎体制（朝、昼、夕）を継続する。

2. 事業報告

①就労支援活動

梅塩の袋詰め作業は、単価が良く収入を見込んで取り組んでいたが、5月途中で先方の申し出により打ち切りになる。新たな作業を模索することになり、紹介などで外作業（草引き、ATM清掃）が増え、作業選択の幅が広がった。又、外作業には手当をつけることによりメンバーのモチベーションにもつながった。

バザー活動では、いなづみ作業所の申し出により初めてイノブタダービーに参加。3事業所（やおき工房、陽だまり、か～む）で連携して取り組むことができ、大幅な収入の増加につながった。

②生活支援活動

支援が必要な利用者に対して、服薬管理や金銭管理を実施した。服薬や金銭については受け渡しに関するトラブルを防ぐため、記録を残し実施した。

生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実するよう、買い物支援を継続して実施した。

年1回の健康診断を実施し、精密検査が必要な利用者には関係機関や家族との連携に努めた。

防災訓練の避難訓練では、足腰が弱い利用者のみ、初めて車での避難訓練を行った。Drとの意思疎通が難しい方や重篤な疾患がある方の受診同行を定期的に行い、家族、関係機関と連携して支援を行った。

③個別支援関係

通所が滞った利用者に対し、電話連絡や家庭訪問等も取り入れながら、次の通所につなげる取り組みを行なった。

アセスメントを行い、個別支援計画に基づいて関係機関と連携し支援を行った。

3. 地域交流活動

加入している町内会のお祭りに初めて参加し、交流を行った。

4. その他の活動

スポーツレク（グランドゴルフ）では、他事業所との交流を行った。

5. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	花見、買い物、カラオケ	10月	BBQ、縁日、買い物、DVD鑑賞、釣り、やおき運動会
5月	イノブタダービー、ウエスタンリーグ グランドゴルフ、買い物、DVD鑑賞	11月	縁日、外食&買い物、カラオケ、上富田健康祭り
6月	外食（イオンモール）、買い物、カラオケ	12月	調理実習、クリスマス会、買い物、大掃除
7月	調理実習、買い物、ドライブ、茶話会 羽衣町内会祭り	1月	初詣&外食、買い物、カラオケ、やおき新年会
8月	バイキング&ドンキホーテ、買い物 大塔夏まつり、かき氷、大掃除	2月	調理実習、買い物、ふれあい文化祭
9月	空の日フェスタ（白浜町）、ぶどう園、 買い物、カラオケ、防災訓練	3月	健康診断、稲村の火見学、防災訓練、 室内ゲーム、DVD鑑賞、忘年度会

6. 数値実績

事業種別	就労継続支援 B 型	
定員	31 年 4 月 20 人	R2 年 3 月 20 人
実利用者数	31 年 4 月 21 人	R2 年 3 月 23 人
1 日平均利用者数	31 年 4 月 13.3 人	R2 年 3 月 13.3 人
職員常勤換算配置数	31 年 4 月 4.9 人	R2 年 3 月 4.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 254 日	休日開所日数 18 日
授産科目及び授産収入	科目	収入 (円)
	内職 (梅・塩・箱等)	665,157 円
	依託作業 (給食運搬)	271,010 円
	ジュース販売、自販機	393,998 円
	ペットボトル	200,500 円
	バザー活動	646,417 円
	その他	144,724 円
	計	2,321,806 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 6,100 円	実績 6,307 円

7. 利用者の年齢層 (令和 2 年 3 月末)

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	計
男			2 人	3 人	4 人	3 人	12 人
女			2 人	2 人	4 人	3 人	11 人
計			4 人	5 人	8 人	6 人	23 人

(平均年齢：50.9 歳)

就労移行・就労継続B型事業所等 (指定障がい福祉サービス事業所 すまいる)

1. 運営概況

今年度のすまいるは、多機能型での運営を行い、就労移行支援事業 定員 7 名、就労継続支援事業 B 型 定員 20 名の運営を行い、今年度も、定員内での運営を行う事が出来ました。今年度は、就労移行支援事業で、一般就労に繋がった 3 名の利用者の他、就労継続支援事業 B 型で、退所人数が多い年度でした。退所理由として、精神障がい者 3 名の利用者は、病気の再発により退所、1 名の利用者は、マンツーマンの支援が必要（障がい支援区分 4）な方で、他施設利用に移行調整し退所されました。高齢の利用者の 1 名（68 歳）も、介護保険利用者の為、ケアマネージャーの方と福祉サービス利用調整を、度々行っている状況です。そして、年度終わりには、新型コロナウイルス感染予防の為、緊急事態宣言が全国に拡大され、ぽのぽの工房等の飲食店では、授産活動を自粛しなければならなくなり、利用者の工賃確保の課題が大きく押し掛かってくる年度になりました。

①性別・年代別

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	65歳以上	合計
男	4	8	4	4	4	1	1	26名
女	0	9	3	0	1	0	2（要介護1）	15名
合計	4	17	7	4	5	1	3	41名

(平均年齢 33.7歳)

②障がい種別・障がい性別

障がい名	利用者数	男	女
精神	12名	8名	4名
知的	22名	14名	8名
身体（重複も含む）	3名	3名	0名
発達	4名	3名	1名
引きこもり	2名	0名	2名

③居住形態

同居・別居等	利用者数	男	女
家族と同居	32名	19人	13人
単身生活	6名	5名	1名
グループホーム	3名	2名	1名

④利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	26.2	26.5	26.6	26.8	26.8	26.8	26.9	26.9	26.8	26.9	26.9	27.2
開所日数	22	20	21	23	19	20	21	22	23	19	19	21

（年間平均 人/月）

2. 事業報告

①就労支援活動

「就労移行支援」 就職者 3名

・毎年2～3名の新規利用者が、就労移行支援サービスの利用を開始します。今年度は、その他に2名の新規利用者の利用がありました。サービス利用前に、本人の就労希望の確認と、アセスメントを行い、本人、家族に本人ペースでゆっくり進めていく支援が必要な話もしましたが、家族の方の考え（一般就労出来る）が強く先行してしまい1年間様子を見守りました。毎年の課題でもありますが、利用開始時の相談の際、家族の意向が強いケースが多々ありますが、本人、家族に理解して貰い、一般就労に向けてのサービス利用に繋げていくよう調整していきたいと思えます。

・今年度の一般就労状況ですが、2名は、支援学校卒業後就労移行支援事業を2年間利用し、就職（梅加工業、事務補佐等）に繋がりました。1名の方も支援学校卒業後、自立訓練事業終了後、就労移行支援事業を1年半利用し、就職（接客業）しました。

・ぽのぽの工房は、就労移行支援事業の出張所として、接客業、菓子製造に興味ある利用者にサービス提供し、就労訓練を行いました。週3回行っているランチ提供、喫茶業務等、各自役割分担した就労訓練内容に取り組んでいます。今年度は、発達障がい利用者で、仕事が出来ても環境の変化に弱く、何年も就労に繋げる就労訓練内容が見つからないままでしたが、梅屋実習に繋がり、来年度の就職予定者として実習を継続しています。

「就労継続支援B型」

・施設内訓練－仕事内容（土産物・梅加工業等の箱折り、包装作業）で生産活動を行いました。個々の利用者に生産活動に参加して貰い、日中活動の安定に繋がりました。今年度も問題なく順調な生産活動予定でしたが、年度下旬に新型コロナウイルス感染症による経済活動混乱の影響を受け、予想外の生産活動の状況になってしまいました。順調な際に、休日出勤で生産活動を行った事が奏功したのか、平均工賃の結果は、前年度よりも上がっていました。が、来年度は、今まで以上に工賃アップに繋げる生産活動を模索しなければならない年度になると思えます。

・施設外訓練－利用者の希望を聞き参加出来る施設外訓練（梅加工業・梅採り・梅枝拾い・清掃業等）を提供し、仕事する体力作り、仕事の意識付けを図りました。今年度は、1名就労移行支援事業を利用後、サービス変更し4月より梅屋に短時間で一般就労

し8ヵ月継続しましたが、残念ながら事業所都合で退職となってしまいました。

②生活支援活動

「健康管理」

- ・健康診断一通所者は、年1回健康診断を受けてもらい病気の早期発見、早期治療に努めました。50歳頃から体力、気力の低下が多い利用者が増えているように思います。経過観察を行い、体調管理の安定に繋がるよう取り組みます。
- ・体調管理—日々利用者の様子を見守り、必要な際は、家族に連絡し体調管理の安定に繋げるよう取り組みました。今年度は、夏は酷暑の為、水分補給を促し熱中症予防に繋げました。年度末は、新型コロナウイルス感染予防の為、マスク着用、アルコール消毒、検温、換気、行動自粛のお願いを徹底して行い感染予防に繋がっています。今後も徹底し感染予防を行っていきます。
- ・受診同行—利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声かけ支援（服薬の声掛け・確認）を行いました。必要な際は、受診同行し主治医と情報交換等を行い、精神面の安定に繋がる支援に取り組みました。今年度は、精神障がいの利用者が、1名陰性症状が続いている為、受診同行を行い、医療サポートを優先する調整を行い在宅療養で様子を見守る事になりました。今後も家族、関係機関との連携を密にとり情報交換、情報共有を行い、緊急対応する体制作り、役割分担の確認を行い取り組みます。

③個別処遇関係

利用者の意向を尊重し、出来るだけ具体的に取り組み達成出来る目標で支援計画の作成を行いました。目標がある利用者は、目標に向け前向きな気持ちで取り組んでくれていますが、目標が立てづらい利用者は、「現状維持でお願いします。」の話が多くありますが、利用者寄り添い、本人と話し合いながら支援計画の作成に繋げました。本人の意向を中心に支援計画を立案しますが、意思伝達等が難しい利用者は、家族の意向を聞き、個別支援計画作成に繋げていく事を心がけました。行動障がいがある利用者は、今年度、他施設利用（生活介護事業）を検討し、見学、実習を行いサービス変更しました。就労継続支援B型事業を利用している処遇内容が、多様化している現状は続いています。

日中活動内容を見守り、必要な支援内容を検討していきたいと思っております。

3. 地域交流活動・地域貢献活動

授産活動の収益にも繋がっていますが、古着等リサイクル回収を行っています。

地域の方のご協力もあり、古着を回収して貰う回数も増えています。

- ・春—ぼのぼの工房店内において、利用者の作品展示会開催、販売
- ・夏—夏の子どもまつり（みなべ町地域活動連絡協議会・みなべ女性会・紀州日高漁業協同組合・南部町支所・みなべ町青少年育成町民会議・みなべ川森林組合・

みなべ町備長炭生産者組合・青年クラブみなべ・みなべ町産業課・みなべ町教育委員会と協賛)

- ・秋ーみなべグランドゴルフ大会 (みなべはあととはあとグランドゴルフ実行委員会として参加)
- ・冬ー梅種飛ばし (出店参加)

4. その他の活動

非常災害に備えるための防災学習、訓練の実施を行いました。

「相談事業」

みなべ町から委託で受けているみなべ町障がい者相談支援事業と、計画相談事業を並行して行いました。今年度の相談者は、52人(精神32人・知的13人・発達2人・身体3人・その他2人)で、52人中新規相談者は、8人でした。令和3年度よりみなべ町障がい者相談支援事業の窓口が、田辺市に移行していく事に決まりました。今後は相談者の方、関係機関の方に説明し、スムーズに移行出来るよう行政、関係機関と連携し調整していきたいと思えます。

5. 行事報告

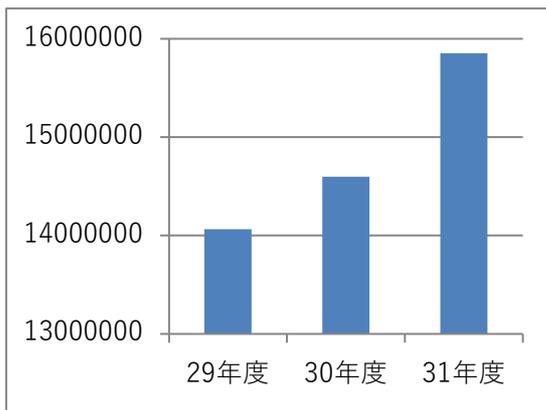
月	行事等	月	行事等
4月		10月	すまいる旅行 (湯快リゾート白浜御苑泊) (アドベンチャーワールド・エネルギーランド とれとれ広場) ・南部ライオンズクラブ結成 50周年記念 スペシャルディナーコンサート招待 (ホテル&リゾート和歌山みなべ) ・やおき交流会 運動会 (田辺スポーツパーク) ・やおき交流会 ソフトボール (中辺路多目的球場)
5月	・休日レク (イノブタ) ・串本散策	11月	・みなべGG大会 (共和球場) ・翔龍祭 (龍神市民センター)
6月	※梅収穫繁忙期の為、余暇活動自粛	12月	
7月	※梅収穫繁忙期の為、余暇活動自粛	1月	・初詣・食事会

			(闘鶏神社・パビリオンシティー) ・やおき新年会(県立情報交流センター)
8月	・スポレク ボーリング (ジストボール田辺店)	2月	・観梅 ※新型コロナウイルス感染予防の為、中止
9月	・スポレク (ROUND 1) ・避難訓練 (1回目)	3月	・食事会&DVD鑑賞会 ※新型コロナウイルス感染予防の為、中止 ・避難訓練 (2回目)

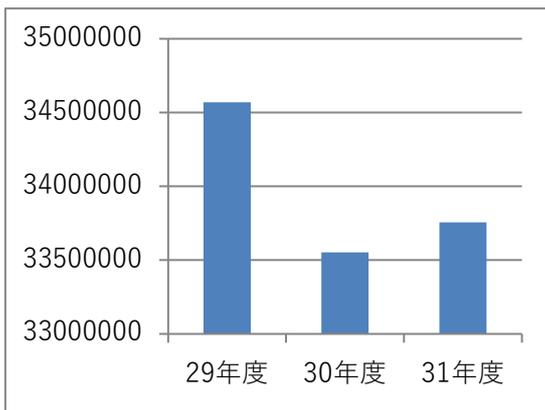
6. 数値実績

事業種別	就労移行支援		就労継続支援B型	
	平成31年4月	令和2年3月	平成31年4月	令和2年3月
定員	7人	7人	20人	20人
実利用者数	7人	8人	28人	27人
1日平均利用者数	7人	7, 2人	19. 6人	20. 1人
職員常勤換算配置数	2. 9人	2. 9人	4. 9人	4. 9人
年間稼働日数	総稼働日数 250日	休日開所日数 19日	総稼働日数 250日	休日開所日数 19日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)	科目	収入(円)
	自主製(ぼの)	2, 212, 366	自主製(ぼの)	
	バザー	0	バザー	599, 231
	施設内売上	0	施設内売上	3, 645, 289
	施設外売上	435, 900	施設外売上	2, 289, 331
	受託作業	357, 874	受託作業	265, 510
	計	30, 006, 140	計	6, 799, 361
工賃実績(一人当たり)	当初目標 25, 000円	実績 24, 808円	当初目標 18, 000円	実績 19, 124円

事業収入推移

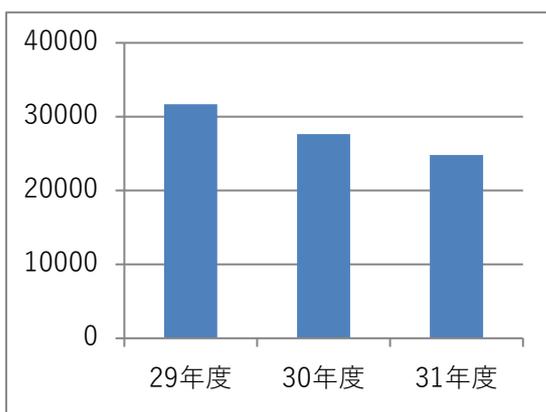


就労移行支援事業

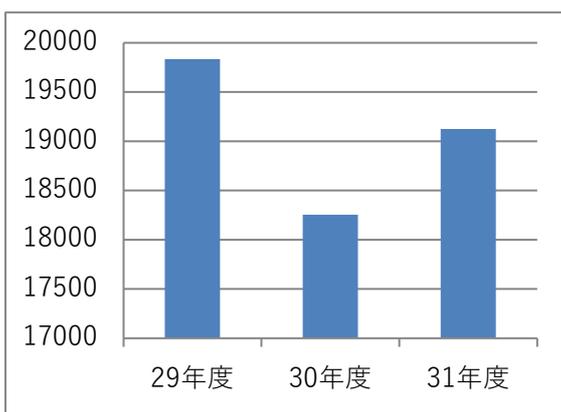


就労継続支援事業 B型

平均工賃推移



就労移行支援事業



就労継続支援事業 B型

【就労継続支援 B 型】

令和元年度 いなづみ作業所 事業報告書

1. 運営概況

清潔に問題のある利用者数名については、デイサービスでの入浴と、ヘルパーさんによる朝の着替えの支援で、通所を継続することが出来た。

2名の方が退所された。(自営1名、自宅1名)

階段に手すりを設置し、腕や足、視力に障害のある利用者の安全を確保した。

2. 事業報告

①就労支援活動

最低賃金が上がった事、消費増税があった事を理由に、便利屋の料金を若干上げた事と、太陽光発電所で、契約以外の不意な作業(別料金)が発生した事、また町からの委託契約である若者広場のトイレ掃除の契約料金を上げてもらった事、魚の加工の手伝いが急に入るようになり、冬の閑散期の収入源となった事等が今年度の大きな増収につながった。

草刈り等に参加できない利用者の為に、裏の駐車場に小さな畑を作った。

雑草の除去や水やり等、毎日の軽作業と収穫の喜び、また販売して収入を得る体験を通して、働く喜びを感じてもらいたい。

②生活支援活動

肺癌や糖尿病による視力低下・腎機能の低下等、重篤な病気の利用者が出てきた。

食事やたばこの制限、服薬管理や通院同行、金銭管理と、支援内容がかなり複雑且つボリュームになってきている。

③個別処遇関係

アセスメント時の面接的な聞き取りだけでなく、日常の雑談や休憩時の会話の中からも本音のニーズを聞き出せるよう心掛けた。

個別支援計画も、メンバーにわかりやすい表現を使い、丁寧な説明を心掛けた。

3. 地域交流活動

今年度は、イノブタダービーのバザーを他事業所で出店してもらい、年が明けてからは自粛せざるを得なくなった為、町内行事にはあまり参加できなかった。

しかし、便利屋を通じての生活のお手伝いは、町民の方々のお役に立てた。

また、町内のゲートボールクラブの方々のお誘いにより、いなづみチームが結成される事となった。

4. 相談支援事業

すさみ町からの委託相談事業において、人数にして20名の町民から、計745件の相談を受けた。家族の方との連絡を密にし、関係各所との連絡会議を増やした結果、相談件数がかなり増えた。

また、希望する利用者の、他事業所の見学を積極的に行った。

5. その他の活動

長崎への一泊旅行に行ってきた。生の軍艦島が利用者さんにも好評だった。

津波被による災害の避難訓練では、浸水区域に住む利用者の自宅から、最寄の避難所までの避難訓練を行った。

6. 行事報告

月	行事等	月	行事等
4月	愛の会和歌山バザー参加	10月	いももち作り
6月	買い物・外食レク	11月	町民運動会バザー参加 長崎旅行
7月	中田食品見学	12月	とれとれバイキング
8月	釣り・カレー作り	1月	やおき新年会
9月	バーベキュー	2月	和歌山市ラウンド・ワン やおき新年会

7. 利用者の年齢層

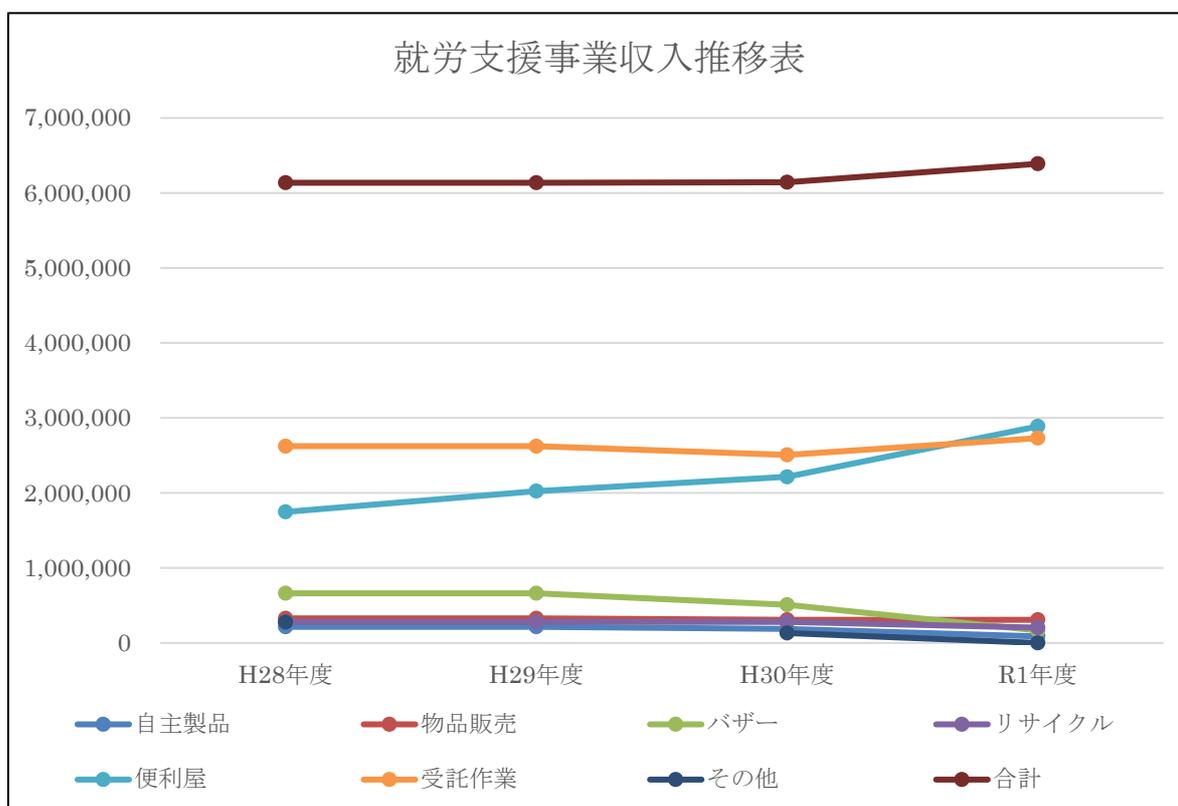
性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	2	2	2	3	6(4)	3	18
女	0	0	0	2	0(0)	2	4
計	2	2	2	5	6(4)	5	22
	9%	9%	9%	23%	27%	23%	100%

※60代のカッコ内は65歳以上の人数です

障害種別	人数
身体	3
知的	9
精神	10

8. 数値実績

事業種別	就労継続支援B型			
定員	31年4月	20人	R2年3月	20人
実利用者数	31年4月	22人	R2年3月	22人
1日平均利用者数	31年4月	18.9人	R2年3月	18.8人
職員常勤換算配置数	31年4月	5.2人	R2年3月	5.2人
年間稼働日数	総稼働日数	249日	休日開所日数	13日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)		
	自主製品	87,600円		
	物品販売	306,600円		
	バザー	167,100円		
	受託	2,731,106円		
	便利屋	2,888,112円		
	リサイクル	205,640円		
	計	6,386,158円		
工賃実績 (一人当たり)	当初目標	実績		
	時給 597円	時給 595円		
	月給 25,000円	月給 21,727円		



令和元年度 就労支援事業年間売上集計表

自主製品	野菜	6,400	3.0%
	肥料	75,000	
	石けん	6,200	
	小計	87,600	
物品販売	ジュース・ゆでたまご売上	207,000	5.0%
	その他	99,600	
	小計	310,151	
	バザー	167,100	8.3%
リサイクル	古紙回収	140,840	4.6%
	アルミ	64,800	
	小計	205,640	
便利屋	墓掃除	109,600	36.0%
	草刈	1,968,062	
	洗車	415,500	
	家具処分	150,800	
	その他	244,150	
	小計	2,888,112	
受託作業	若者広場&トイレ掃除	233,000	40.8%
	太陽光発電所管理	1,880,906	
	洗濯	505,200	
	デイサービスきたじの掃除	112,000	
	小計	2,731,106	
合計		6,386,158	100.0%

